

小体研

Physical education

2022年（令和4年）

7月13日（水）

◇第2号◇

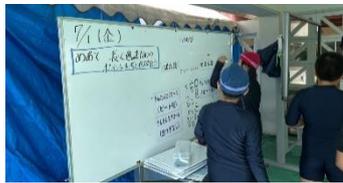
八重山地区小学校体育研究会広報誌

令和4年度離島長期研修 伊藤真哲（石垣市立登野城小学校教諭）

今年度、離島長期研修として八重山地区小体研メンバーの伊藤教諭が体育の研究を行っています。研究テーマを「表現力を高める体育の授業づくり～ファシリテーションを取り入れた水泳運動指導（第4学年）～」として、児童の表現力を育む手立てとして、ファシリテーションを取り入れた授業実践を研究しています。

教師がファシリテーターとして対話活動を活性化させ、子どもたちの考えや気づきを引き出していきます。その際にホワイトボードや電子黒板などに児童の言葉等を可視化することで、子どもたちの考えや気づきをつないだり課題把握や解決のための方法を思考、判断したりする場を作っていきます。児童が考えたことを伝え合う中で表現力を高めることを意図した研究です。

7月1日（金）に検証授業が行われました。電子黒板に映し出された子どもたちの水中動画から、よさや意識するポイント、課題、改善策について意見を交わす中で、泳ぎ（浮く、浮いて進む）のポイントを共通理解していました。学習はバディ学習で、子どもたちがお互いの泳ぎを見合いながら「下を見て」「ばた足が弱くなっているよ」等のアドバイスをし合う姿が見られました。



子どもたちが、自分の気づき（ポイント）を書き込む様子



児童の考えを引き出し、それらをつなぎ合わせながら、課題解決に向けてのポイントや意識する視点に気づくようファシリテーションしています。



水中の自分たちの動きからよさや意識するポイントを見つけています。



バディ学習：お互いが泳ぎのポイント抑えているので、手のかき方や目線等、見る視点があることでアドバイスを伝え合っています。

参観された金城一機教諭【八重山地区体育科指導コーディネーター・石垣市立大浜小学校】より思考判断したことを、相手（バディや先生）に表現する（言語、動作、ポイント等）ことが垣間見えた授業でした。もちろんそこに至るためには、真哲先生によるICTの活用や発問の工夫、ファシリテーション等を活用して、子どもたちに特に身につけさせたい力が明確だったからだと思います。体育こそ「思考力、判断力、表現力等」の育成を大切にと感じます。大切にすることで、子どもたちの表情がイキイキとするのだと実感できた授業でした。

【令和4年度 八重山地区小学校体育研究会 研究授業について】

八重山地区小体研では、児童の主体的・対話的で深い学びに向けた授業の実現に向けて研究を進めています。昨年度では、「思考力・判断力・表現力等」を育む指導の充実を目指し、検証授業を行ってきました。昨年度の古謝広貴教諭（登野城小学校）や知念祐志郎教諭（大浜小学校）の授業では、場の設定やワークシートの工夫、タブレット端末の活用等により一定の成果も見えてきています。今年度は、「他者に伝える（表現力）」ことができるようにするためにどのような手立てや指導工夫が必要か研究を進めていきます。

運動領域・保健領域とも検証授業を実施予定です。詳細は下表をご覧ください。

※運動領域の田島心気朗教諭の授業実践は、沖縄県学校体育研究大会（宮古大会）の誌上発表となります。

【運動領域】

授業者：田島 心気朗（石垣市立登野城小学校教諭）

単 元：マット運動（第5学年）

公開授業予定日：7月15日（金）6校時

【保健領域】

授業者：川島 海斗（石垣市立八島小学校）

単 元：調整中

公開授業予定日：12月頃予定

「体育学習が未来を創る！今、八重山小体研が熱い！

がっちりスクラム！やいま体育！」

